

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人 自遊の広場	代表者	理事長 宮内眞	法人・ 事業所 の特徴	○古民家を使い、高齢者が馴染みやすい場づくりを心掛けている ○地域住民やボランティア等、誰もが入りやすい雰囲気づくりをしている。 ○日常生活圏域・とりわけ地元の濃い人間関係が、そのまま日常生活に反映するので、個人情報管理や力関係のバランスに気を配る必要がある。
事業所名	すずかけの家	管理者	宮内 眞		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	民生委員	合計
		2	欠席	欠員	1	1		(2)	2	6 (8) 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	○職員は、会議録を必ず読む ○朝の打合せの記録をする ○評価事業が、本人・家族の意見を反映するよう改善すべき。	○(本人・家族の意見の反映という点以外は)よくできた。	○(全国連絡会がつくった)原案は、現状に即して改良されるだろう。タイアップしたい。	○評価事業について。 本人・家族アンケート或いはそれに代わる方法の実施を検討する
B. 事業所の しつらえ・環境	○より良い空間にするため、片付け・清掃を更に進める	○できていた。		
C. 事業所と地域の かかわり	○相談できる場であることを、ホームページ等でアピールする ○地域交流事業等で相談コーナーや相談できる雰囲気を作る	○まあできている	○相模原市が始めた「困りごと相談事業」の登録事業者として、取り組みやすくなった。	○「市困りごと相談事業」登録事業者になったのをきっかけに、前回の改善計画をより強力に進める
D. 地域に向いて 本人の暮らしを支える取組み	○とても意義のある問題だが、要員確保が難しい。経済的問題も含め、行政等と考えたい。 ○事業所に近い地域から体制づくりをしていく。	○事業所のペースで、ゆっくり少しずつできている。	○本人の居住地域は、力関係や色々な問題がある。気遣いながら行う必要あり。○すずかけ利用経験者には現在も訪問。○認知症カフェでの送迎等でも関わる。	○前回の改善計画を継続する
E. 運営推進会議を 活かした取組み	○運営推進会議で事例検討をよりしていく。○同会議の報告を職員会議で必ずする。また職員も参加できるよう時間等を工夫する。	○できている	○推進会議のメンバーは、事業所の事業やイベントに協力している。	○運営推進会議のメンバーチェンジやより幅広い地域の事例検討などを通して、篠原以外の地域にも目配りしていく。
F. 事業所の 防災・災害対策	○家族・地域に知らせ、参加呼びかけをする ○災害時、地域の高齢者のケアを住民と共に考えていく	○ほとんどできていない。	○保健師にきてもらい、防災訓練とセットする	○利用者家族、地域住民・消防団・自治会と繋がるような防災計画を立てる。